

# 福岡の街がワクワクする未来型スタジアムの研究

平成 29 年度市民研究員 谷脇 良也

## はじめに

2020 年（平成 32 年）開催される東京オリンピック。その際、新国立競技場の建設において、建設費の高騰やオリンピック終了後の維持費などの問題により、建設の是非が出たことは記憶に新しい。日本ではこれまで、スポーツ＝体育という認識でいたため、健康・精神という面が重要視されてきた。そのため、スポーツ関連施設は郊外などの公園に設置されることが多く、利用の多くは週末に限られている。当然ながら収益化はできないため、ほとんどのスタジアムはスポーツをする市民の健康のために必要なコストセンターという位置づけになっている。

それに対して、欧米では 2000（平成 12）年頃から、スタジアムを核とした街作りならびにコミュニティの形成が進められており、スタジアムはスポーツ興行を行う場だけではなく、健康管理、ビジネス、コミュニティと様々なシーンにおいて活用されている。また、ヨーロッパではサッカーが国際交流には不可欠なアイテムとなっており、都市の知名度に貢献している。国際試合ができる施設を有することは、国際都市の必要条件のひとつであると考えられる。福岡市がアジアを代表する国際都市として発展していく上で、未来型スタジアムは必要不可欠な施設である。

近年、日本においてもスポーツ庁を中心にスポーツ産業の成長産業化を目指しており、そのひとつとしてスタジアムの建設を推進している。本研究を通じて、福岡に住む人、来る人がワクワクする、福岡らしい未来型スタジアムとはどのようなものを提言するものである。

## 1. 福岡市におけるスタジアムの実情と市民の期待

### (1) 福岡市にある施設の概要

福岡市にあるスタジアム（陸上競技場含む）は、博多区東平尾公園に 2 施設、中央区舞鶴公園に 1 施設となっている。すべての施設に共通するのが、スポーツイベント開催に合わせて建設されたことである。日本では、このようにスポーツイベントを開催することを目的としてスタジアムが建設されることが多い。福岡市においては、1948（昭和 23）年（福岡国体）、1990（平成 2）年（とびうめ国体）の国民体育大会開催時に、平和台陸上競技場、東平尾公園陸上競技場が建設された。また 1995（平成 7）年に学生のためのオリンピック

と呼ばれる国際大会、ユニバーシアード福岡が開催され、東平尾公園博多の森球技場が建設された。

### ① 東平尾公園博多の森球技場（レベルファイブスタジアム）

種別	: 球技場（サッカー、ラグビーなど）
供用開始	: 1995（平成7）年
席数	: 21,562席
設備	: 天然芝ピッチ、体育館、VIP ルーム、放送設備他
備考	: アビスパ福岡、CCWJ レッドスパークス、キューデンヴォルテクスがホームスタジアムとして利用

### ② 東平尾公園博多の森陸上競技場

種別	: 陸上競技場
供用開始	: 1992（平成2）年
席数	: 30,008席
設備	: 天然芝ピッチ、陸上トラック、放送設備他
備考	: 福岡市における陸上の聖地。過去にはJリーグも開催されていた

### ③ 平和台陸上競技場

種別	: 陸上競技場
供用開始	: 1968（昭和23）年
席数	: 5,000席
設備	: 天然芝ピッチ、陸上トラック
備考	: 福岡国際マラソンの発着地。東平尾公園がオープン後、主に市民イベントで活用されている。

## (2) 他都市スタジアムとの比較

スタジアムの設置状況について、国内と国外での比較を行った。対象は、国内については東京都、大阪府、京都府を除く政令指定都市、国外については福岡市がベンチマークしている第3極の都市とした。

### ① 政令指定都市における比較

政令指定都市の中で、サッカーの国際試合を開催できるスタジアムを有していないのは、仙台市、川崎市、名古屋市、そして福岡市である（表1）。福岡市を除く3都市は近隣都市に国際試合が可能なスタジアムがあり、補完できている。しかしながら、福岡市は近隣に

国際試合ができるスタジアムはなく、大分市にある大分スポーツ公園総合競技場が一番近いものの 100km 以上離れている。ただし、福岡市には福岡ドームがあり、野球の国際試合が開催できるスタジアムがある。オープン当初は、スタンドが稼働しサッカーの試合も開催できていたが、現在では固定式になっている。

**表 1 政令指定都市におけるスタジアム比較**

都市名	スタジアム名	用途	収容人数	国際戦開催
札幌市	札幌ドーム	野球兼用	41,484	○
仙台市	仙台スタジアム	サッカー専用	19,694	△
さいたま市	埼玉スタジアム 2002	サッカー専用	63,700	○
川崎市	等々力陸上競技場	陸上競技場	27,495	△
横浜市	横浜国際総合競技場	陸上競技場	72,327	○
名古屋市	瑞穂公園陸上競技場	陸上競技場	27,000	△
神戸市	神戸ウイングスタジアム	球技場	34,000	○
広島市	広島広域公園陸上競技場	陸上競技場	50,000	○
福岡市	福岡ドーム (参考)	野球場	38,585	×
福岡市	博多の森球技場	球技場	22,563	×

○：開催可能、△：近隣に開催可能スタジアムあり、×：開催不可

(出典：wikipedia を元に筆者作成)

## ② 第 3 極の都市との比較

第 3 極の都市とは、公益財団法人福岡アジア都市研究所が、福岡の成長をベンチマークするために、福岡と類似性を有している都市として選定した 8 都市である。福岡市を除く、各都市のスタジアムは収容人数が 40,000 人以上となっており、どの都市も日本サッカー協会が定める国際 A マッチ開催基準 (クラス S) を満たしている (表 2)。

**表 2 第 3 極の都市におけるスタジアム比較**

都市名	スタジアム名	用途	収容人数
釜山	釜山アジアド主競技場	陸上競技場	53,769
シアトル	センチュリーリンク・フィールド	球技場	67,000

ストックホルム	フレンズ・アリーナ	サッカー専用	50,000
バルセロナ	カンプ・ノウ	サッカー専用	99,786
ミュンヘン	アリアンツ・アリーナ	サッカー専用	75,000
バンクーバー	BC プレイス・スタジアム	球技場	54,320
メルボルン	ドックランズ・スタジアム	球技場	56,347
ヘルシンキ	ヘルシンキ・オリンピックスタジアム	陸上競技場	40,600
福岡市	博多の森球技場	球技場	22,563

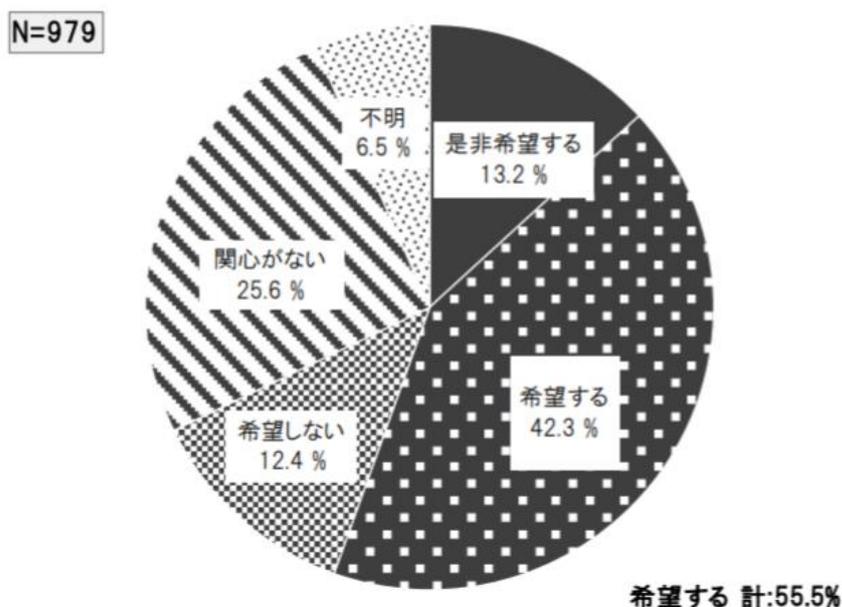
(出典：wikipedia を元に筆者作成)

### (3) 国際スポーツイベントに対する福岡市民の期待

福岡市市民スポーツ実態調査によると、福岡市民の 55.5%は、国際スポーツイベントの誘致・開催を希望しており（図1）、期待する効果として「福岡の知名度向上」「地域経済活性化」「国際交流」を上げている（図2）。

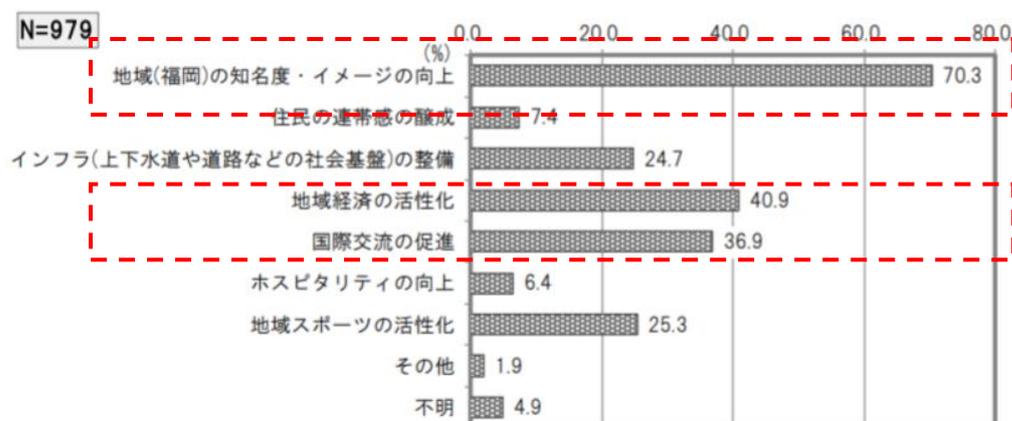
福岡市は、2019（平成31年）年にラグビーワールドカップ、2021（平成33年）年に世界水泳の開催を予定している。しかしながら、ラグビーワールドカップはスタジアムの基準からメインゲームの開催は大分に譲っており、国際試合の多いサッカーに至っては、1995（平成7年）年に開催された日本対メキシコ以降、国際試合は開催されていない。

図1 国際スポーツイベントの誘致・開催希望



(出典：平成26年 福岡市市民スポーツ実態調査 P33 図表I-86.)

図2 国際スポーツイベントの誘致による効果



(出典：平成 26 年 福岡市市民スポーツ実態調査 P33 図表 I-85.)

## 2. スポーツ産業が成長産業へ

### (1) スポーツの成長産業化

日本再興戦略 2016 において、「官民で認識と戦略を共有し、新たな有望市場を創出する、『官民戦略プロジェクト 10』の一つとしてスポーツの成長産業化が取り上げられ、スポーツ庁は、スポーツ市場規模を 2012（平成 24）年 5.5 兆円から 2025（平成 37）年までに 15 兆円に拡大することを目指すという目標を掲げている。スポーツ関連市場に対して消費、投資、インバウンド等を積極的に取り組み、スポーツ産業を成長させるとしている。

表3 我が国スポーツ市場規模の拡大について（試算）

スポーツ産業の活性化の主な政策		2012 年	2025 年
(主な政策分野)	(主な増要因)	5.5 兆円	15.2 兆円
①スタジアム・アリーナ	▶ スタジアムを核とした街づくり	2.1 兆円	3.8 兆円
②アマチュアスポーツ	▶ 大学スポーツなど	—	0.3 兆円
③プロスポーツ	▶ 興行収益拡大	0.3 兆円	1.1 兆円
④周辺産業	▶ スポーツツーリズムなど	1.4 兆円	4.9 兆円
⑤IoT 活用	▶ 施設、サービスの IT 化進展と IoT 導入	—	1.1 兆円
⑥スポーツ用品	▶ スポーツ実施率向上策、健康経営促進など	1.7 兆円	3.9 兆円

(出典：スポーツ未来開拓会議中間報告 P9 )

内訳をみると、IoT活用やヘルスケア促進なども含まれており、福岡市が進めるスタートアップ支援や健康促進施策などにも通じている。その一つに、スタジアム・アリーナ改革があり、2012（平成24）年2.1兆円の市場規模を2025（平成37）年までに3.8兆円にする目標数値になっている。これまでのスタジアムはいわゆる『ハコモノ』として、コストセンターという認識だった。しかし、スタジアムを中心としたまちづくりにより収益化を目指し、プロフィットセンターへと変える。そのためには、スタジアムを多機能複合型にする必要があるといわれている。

## (2) 多機能複合型スタジアムとは

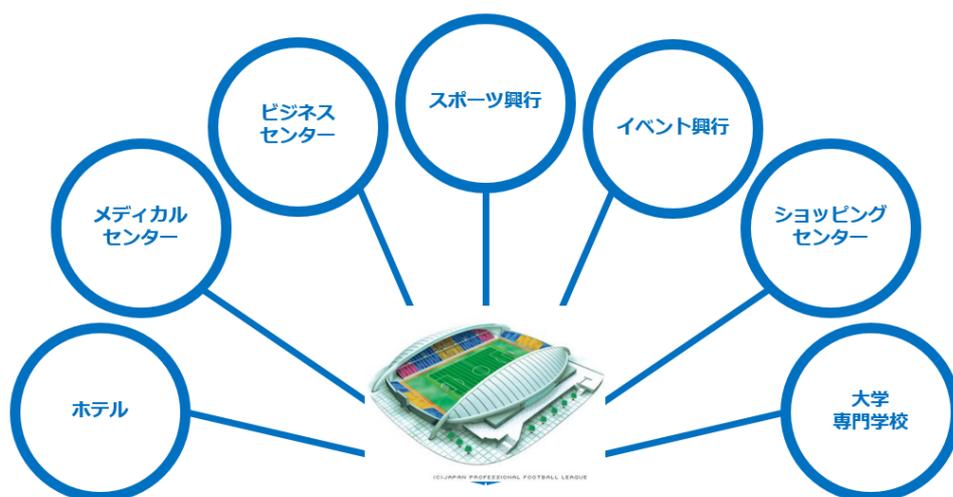
### ① 単機能スタジアムとは

先述の通り、これまでのスタジアムはスポーツイベント開催を目的に建設されてきたため、スポーツイベント開催以外の機能はない単機能スタジアムが多い。この単機能スタジアムは、イベント開催時以外に収益源がなく、建設費の回収および維持費の捻出が難しく、しばしばスポーツイベントの負の遺産と言われている。

### ② 多機能スタジアムとは

多機能スタジアムとは、施設内でスポーツ以外の機能をもつスタジアムのことである（図3）。福岡市では、福岡ドームがそれにあたり、コンサートや展示会の実施ができる機能を有している。海外では、貸し会議室やショッピングセンター、結婚式場などを有しているスタジアムもあり、賃料やイベント貸出料などスポーツイベント以外の収益を得て、スタジアムの維持に活用されている。

図3 多機能スタジアムイメージ



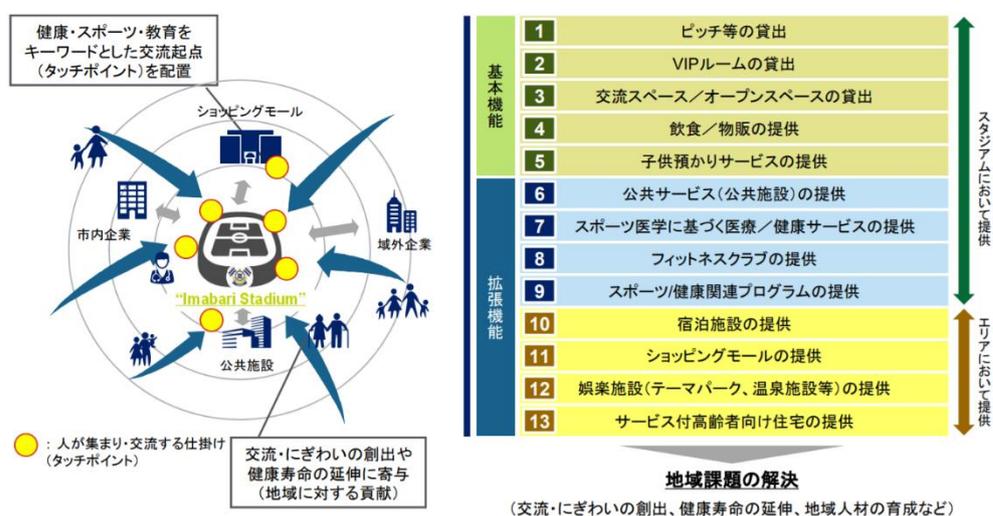
(筆者作成)

### ③ 複合型スタジアムとは

複合型スタジアムとは、周辺に関連施設を置き、それらを複合的に繋げることで機能の効率化を図り、交流・賑わいの他に、新たな産業や雇用を創出するスタジアムである（図4）。福岡市においては、福岡ドームがホテルや商業施設が隣接しており、イベント開催時はもちろん、それ以外であっても賑わいがある施設づくりができています。海外では、ビジネスセンターやマンション、ショッピングセンター、変わった施設では墓地など、スタジアムを中心とした街づくりが行われている。

また、第3極の都市においても、欧米の都市が有するスタジアムはどれも多機能複合型スタジアムであり、アジアのスタジアムだけが遅れている状況である（表4）。

図4 複合型スタジアムイメージ



（出典：スタジアム・アリーナ改革ガイドブック p72：Imabari Stadiumを核とした賑わいづくりと地域課題の解決に向けて）

表4 第3極の都市におけるスタジアムの多機能複合型対応

都市名	スタジアム名	多機能	複合型
釜山	釜山アジアド主競技場	×	×
シアトル	センチュリーリンク・フィールド	○	○
ストックホルム	フレンズ・アリーナ	○	○
バルセロナ	キャンプ・ノウ	○	○
ミュンヘン	アリアンツ・アリーナ	○	○
バンクーバー	BC プレイス・スタジアム	○	○

メルボルン	ドックランズ・スタジアム	○	○
ヘルシンキ	ヘルシンキ・オリンピックスタジアム	○	○
福岡市	博多の森球技場	×	×

(出典：wikipedia を元に筆者作成)

### 3. 多機能複合型スタジアムの事例

これより具体的に多機能複合型スタジアムの事例を示し、福岡市における未来型スタジアムの参考とする。

#### (1) フレンズ・アリーナ/ストックホルム (スウェーデン)

ストックホルムにあるフレンズ・アリーナは収容人数 50,000 名のスカンジナビア最大の国立スタジアムである。2017 年には UEFA ヨーロッパリーグ決勝を始め、スウェーデン代表が利用するスタジアムとして国際試合が開催されている。また、可動式の屋根を有し全天候型となっているので、大きなコンサートやイベントなどを開催することが可能な多機能なスタジアムとなっている。複合施設として、「アリーナ・スターデン」として、ショッピングセンター、ホテル、オフィス、そして住居エリアが併設されている (表 5)。

表 5 フレンズ・アリーナ及び周辺施設

多機能 (フレンズ・アリーナ)	複合施設 (アリーナ・スターデン)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・サッカー試合</li> <li>・展示会</li> <li>・コンサート</li> <li>・会議室 (2 名～)</li> <li>・VIP ラウンジ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ショッピングセンター (200 店舗以上)</li> <li>・映画館</li> <li>・レストラン</li> <li>・ホテル (400 室)</li> <li>・イベントホール (2,000 名収容)</li> <li>・オフィス (100 企業、15,000 人)</li> <li>・居住施設 (2000 戸、5000 名)</li> </ul>

(出典：wikipedia を元に筆者作成)



写真1 フレンズ・アリーナ (wikipedia より)

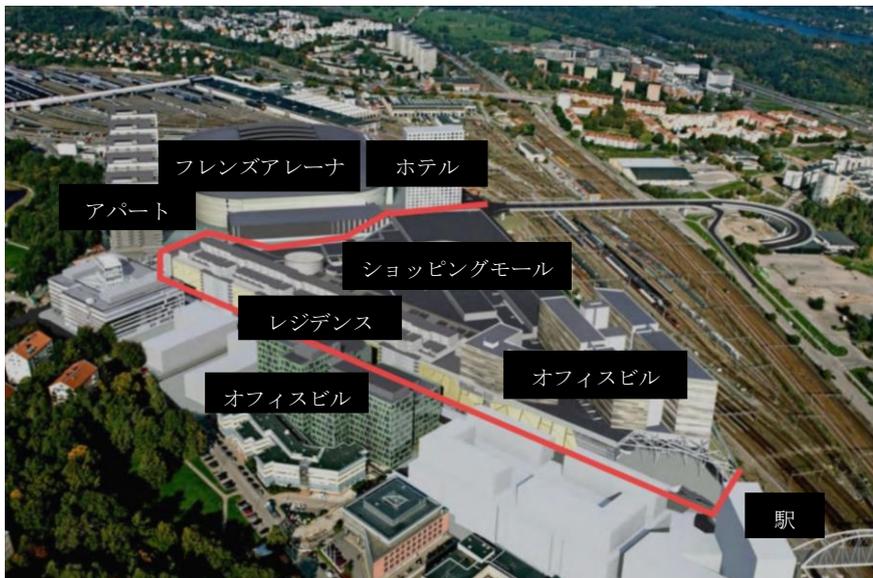


写真2 アリーナ・スターデン (wikipedia より)

## (2) リーバイス・スタジアム／シリコンバレー (アメリカ)

アメリカ シリコンバレーにあるリーバイス・スタジアムは、レストランやアメフトチームのミュージアムなどの多機能なスタジアムである。シリコンバレーらしく、最先端の IT テクノロジーを詰め込んだスタジアムであり、現在アメリカで多くのスタジアムが IT によりスマート化しているが、そのきっかけになったスタジアムと言われている。アメリカにおいて、スポーツはエンターテインメントであり、ショービジネスである。そのため、観客の満足度を上げる様々な工夫を行っている。その一つとして、リーバイス・スタジアムでは、高密度 WiFi を設置し、観客は専用アプリを活用して、リプレイを観たり、スタッツを確認したり、飲食品を注文したりと、生観戦の良さと TV 観戦の良さを兼ね備えた体験ができる。



写真3 リーバイス・スタジアム（公式サイトより）



写真4 リーバイス・スタジアム（公式サイトより）

### (3) ザンクト・ヤコブ・パーク／バーゼル（スイス）

ザンクト・ヤコブ・パークは、人口17万人のスイス第3位の都市バーゼルにあるスタジアムである。このスタジアムは、フィットネスクラブやパーティ会場、ビジネスラウンジという多機能スタジアムでは一般的な施設はもちろんのこと、地下3階にはショッピングセンターがあり、スタンド側には介護付高齢者用集合住宅があるという日本では考えられない多機能複合型スタジアムである。特に高齢者住宅にはピッチを観ることができるラウンジがあり、サッカーの試合開催時には家族と一緒に観戦することができるため、入所者とコミュニケーションを取れる機会の創出につながっている。また、ビジネスセンター、住居施設も併設しており、街の中心から3kmほど離れた場所にあるもののスタジアムを中心に賑わいをみせている。

表6 ザンクト・ヤコブ・パーク及び周辺施設

多機能（ザンクト・ヤコブ・パーク）	複合施設
<ul style="list-style-type: none"> <li>・サッカー試合</li> <li>・会議室（2名～）</li> <li>・VIP ラウンジ</li> <li>・フィットネスクラブ</li> <li>・ショッピングモール</li> <li>・介護付き高齢者集合住宅</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネスセンター</li> <li>・住居施設（アパートメント）</li> <li>・臨時駅（スタジアム直結）</li> </ul>

（出典：wikipedia を元に筆者作成）



写真5 ザンクト・ヤコブ・パーク全景（公式サイトより）

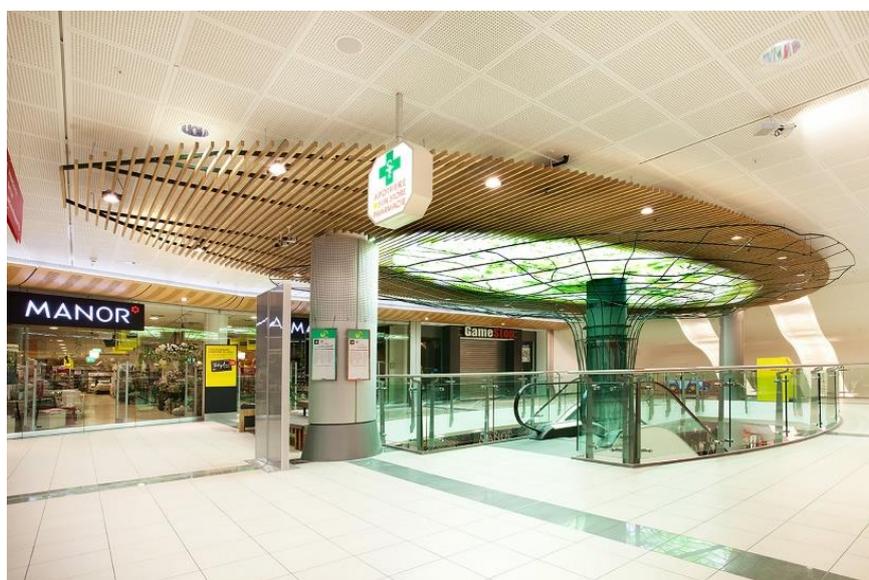


写真6 ショッピングセンター（公式サイトより）

日本においても、多機能複合型スタジアムの建設を計画している都市はある。その中で

いわき市と沖縄県の事例を紹介する。

#### (4) いわき FC パーク (いわき市／福島県)

福島県いわき市にあるいわき FC。設立のきっかけの一つは、運営母体企業の物流センターでの人材の確保である。いわき FC のプレイヤーは、1 日 4～5 時間物流センターで働き、残りはいわき FC でサッカーの練習に励んでいる。チームがあることにより、チームに 30 人選手がいれば、物流センターに 30 人の雇用を創出することになる。地方の物流業界の課題に対して、サッカークラブを運用することで解決しようという面白い試みである。

そのチームの練習場として建設した施設が、「いわき FC パーク」である。この施設は全国でも珍しく、練習場にショッピングモールが併設されており、アウトレットショップやスポーツジム、高級車のショールームや東北初出店の飲食店などがテナントとして入り、日々賑わいを見せている。この施設があることで、いわき市民は東京に行かないと接することが出来ない体験ができ、スポーツを中心とした、新たなコミュニティが形成されている。もちろん、今後はスタジアムの建設も予定している。



写真7 いわき FC パーク ※撮影：宇都宮轅老氏



写真8 ショッピングモール※撮影：宇都宮轅老氏 写真9 ピッチ横のレストラン※撮影：宇都宮轅老氏

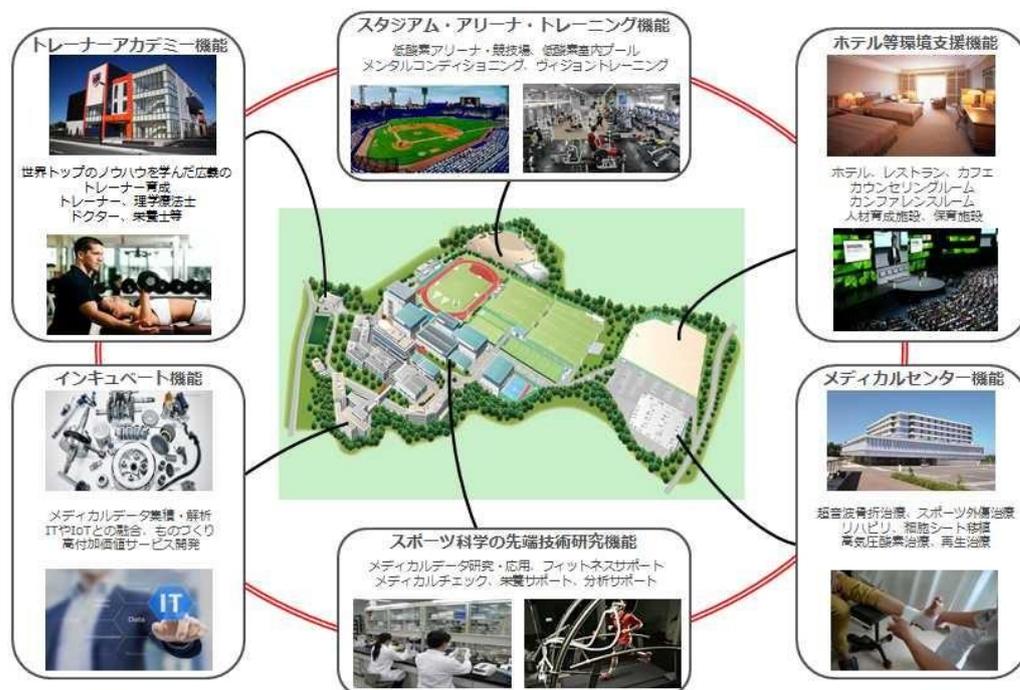
## (5) 沖縄スポーツ産業クラスター（沖縄県）

春のキャンプシーズンは、プロ野球やサッカーのキャンプ地として活用されている沖縄県。しかし、活用されるのは一時的であり収益に波があることが課題であった。そこで、沖縄を一時的なスポーツの拠点ではなく、日本におけるスポーツ産業の中核地とする沖縄スポーツ産業クラスターを発表。スタジアムを始めとした最先端技術を集約した拠点サイエンスパークを中心として、様々な機能を有する施設を複合的に配置し、スポーツ経営人材の育成、スポーツ用品の新商品開発など、地域発の新事業モデルを創出し、スポーツによる地域活性化を目指した壮大な事業を計画している。

### ▼サイエンスパーク機能

- ・スタジアム・アリーナ・トレーニング機能
- ・トレーナーアカデミー機能
- ・インキュベート機能
- ・スポーツ科学の先端技術研究機能
- ・メディカルセンター機能
- ・ホテル等環境支援機能

図5 沖縄サイエンスパーク



(出典：内閣府沖縄総合事務局 沖縄スポーツ産業クラスター形成に向けて)

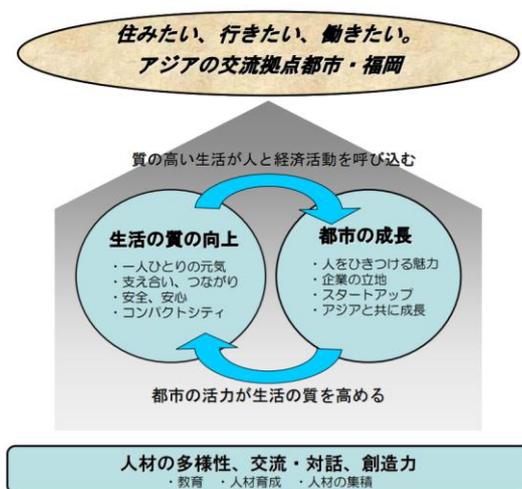
## 4. 福岡市にとっての未来型スタジアムとは

多機能複合型スタジアムの建設が世界的に進められているが、福岡らしいスタジアムとはどのようなものだろうか。この規模の施設を建設するためには、都市計画に則ったものでないと意味が無いと考え、福岡市基本計画および現在抱えている課題を検討した上で、未来型スタジアムを提案していきたい。

### (1) 第9次福岡市基本計画

福岡市は、現在第9次福岡市基本計画に則り、アジアの交流拠点として、「経済的な成長」と「質の高い暮らし」のバランスがとれたコンパクトで持続可能な街づくりを目指している（図6）。コンパクトで機能性に富んだ街づくり、健康意識を持った市民の育成、アジアのスポーツ産業拠点創出など、福岡市基本計画を推進するために、多機能複合型スタジアムの活用が有用ではないか考える。

図6 第9次福岡市基本計画 基本戦略



(出典：福岡市基本構想 第9次福岡市基本計画 P10 都市経営の基本戦略)

### (2) 福岡100

近年日本においては「人生100年時代」「超高齢化社会」「人口減少」など課題を抱え、これまでの仕組みだけでは社会の変化に対応していけないため、新しい仕組みが必要であると言われている。現時点では、人口が伸びている福岡市ではあるが、同じ課題を抱えている。そこで福岡市はこの状況を、課題解決する新たな仕組みを創出するチャンスとし、誰もが健康に長生きできる人生100年時代の健寿社会モデルを構築するために、官民が垣根を越えて、2025年までに100個のアクションを実行するという「福岡100」という事

業を進めている。

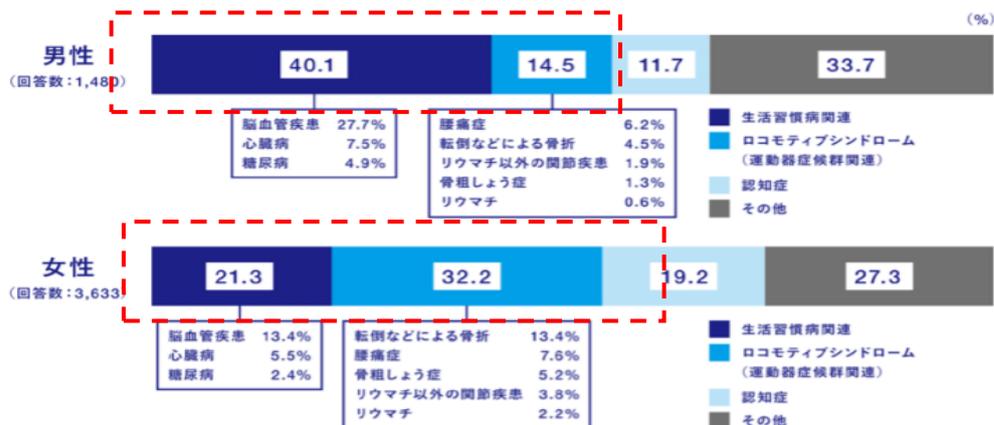
### 福岡 100 が目指す 3つのアプローチ

- ひとりでも多くの市民のみなさんが、これから起こる問題を「自分ごと化」し、解決に向けて動き出すきっかけをつくる。
- 医療や介護に直接関わる病院や介護施設の方のみならず、大学や企業の知恵や工夫を取り入れて進めていく。
- 「大都市における超高齢社会」という未曾有の課題に対し、福岡市から日本全国、そしてアジアや世界に対して未来志向の「解」を示す。

市民が健康に生活するというを「自分ごと」化して行くことは、このプロジェクトにおいて非常に重要であり、スポーツや運動が果たす役割は大きい。

現在、元気な街である福岡市の市民は、健康に対する意識が低い。例えば、特定健診受診率をとってみると、全国平均 38.5%に対して、福岡市は 22.1%と 16.4 ポイントも低く、政令指定都市の平均 26.8%と比べても低い数値となっている。健康だから問題ないかというそうではなく、福岡市の要介護状態になった原因をみると、男女ともに半数以上が生活習慣病関連または、運動器症候群（ロコモティブシンドローム）によるものになっている（図7）。これらの病気は、運動により予防できるものであり、楽しく運動できる環境を作ることが、健康に対して「自分ごと」化することの一助になると考える。

図7 要介護になった要因



出典：「平成 25 年度高齢者実態調査」[福岡市]

(出典：平成 25 年度高齢者実態調査「福岡市」)

### (3) スタートアップ都市福岡

2012（平成 24）年に開催された明星和楽において、福岡市の高島市長は「スタートアップ都市宣言」を行った。以後、福岡市はグローバル創業・雇用創出特区となり、スタートアップ特別減税やスタートアップインキュベーション施設「Fukuoka Growth Next」開設など、積極的にスタートアップ支援を行ってきている。また、前述の通り国はスポーツ関連産業を成長産業として力をいれていくとしており、中でも IoT 分野においては、2025（平成 37）年 1 兆円規模にする目標を立てている。これはスタートアップを後押しする福岡市にとっては好機であると考えられる。しかし、現在福岡市にはスポーツ産業スタートアップを支援できる施設はなく、このままでは他県に遅れをとる可能性がある。多機能複合型スタジアムを活用することにより、スポーツ産業の拠点構築が可能になるであろう。

### (4) スポーツ MICE

福岡市は、スポーツを活用した MICE に積極的にも取り組んでいて、2019（平成 31）年にラグビーワールドカップ、2021（平成 33）年に世界水泳が開催される。どのイベントも規模は大きいものの、単発であり、継続性が低い。また、ラグビーワールドカップにおいては、スタジアム規模の問題で、福岡市では 3 試合のみの開催で主要試合は開催されない。国際試合が可能なスタジアムを有する大分市では、決勝トーナメントを含む 5 試合が予定されており、その経済効果は 253 億円になるといわれている。せっかく誘致した国際スポーツイベントも、このようにスタジアムの規模によって、経済効果の差が出てしまうことがわかる。また、国際試合の開催数でいうとサッカーが圧倒的に多く、地方都市においても、名古屋市や仙台市などは、近隣のサッカースタジアムにて、毎年日本サッカー代表戦を含む国際試合が開催されている。

アジアでもサッカーは人気スポーツであり、福岡市がアジアのグローバル都市を目指すのであれば、国際試合が開催できる多機能複合型スタジアムが必要不可欠である。

## 5. 福岡市らしい多機能複合型スタジアムの提案

現在福岡市が取り組んでいるアクションや世界的な動きなどを踏まえ、福岡市らしい多機能複合型スタジアム案を提言したい。

### (1) ヘルシーライフスタジアム

健康社会のモデル都市を目指す福岡市。その中心となる施設がこのヘルシーライフスタジアムである。運営するのはスタジアムを本拠地とするプロスポーツクラブである。このスタジアムは、クラブに関わるトレーナーや理学療法士、栄養士などが中心となり、楽しくボディケアを受けて、学ぶことができる場となっている（表 7）。また、複合施設として、メディカルセンターを置き、市民は最先端の技術に接することができる。さらに、スポー

つに関連する企業の研究機関や学校もあり、新たな産業や人材が生み出される拠点である。  
(表8)。

**表7 ヘルシーライフスタジアム施設**

スタジアム	収容人数4万人のスタジアム。日本代表の試合も度々行われるなど九州トップクラスのスタジアム
スポーツジム	最新のトレーニング機器を完備し、プロスポーツクラブに所属するトレーナーの指導を受けることができる
クッキングスタジオ	プロスポーツクラブの栄養士によるクッキング講座や食育講座など、食から健康を支援する
リハビリテーションセンター	最新の設備を有し、理学療法士によるリハビリを受けることができる。試合開催日には試合を観ながらリハビリ受けることもできる

(筆者作成)

**表8 ヘルシーライフスタジアム複合施設**

医療系大学/専門学校	主に理学医療について学ぶことができ、プロスポーツのトレーナーやスポーツ科学の人材育成を行う
スポーツ科学最先端研究所	プロスポーツクラブと提携し、メディカルデータなどを駆使して、スポーツ科学の研究を通じて健寿モデルの構築を行う
整形・形成外科クリニック	最新医療を受けるとともに、研究所と連携してメディカルデータを集積するための施設にもなっている
食品・薬品メーカー研究所	病気を未然に防ぐための食品や医薬品を研究開発する施設
介護付き老人ホーム	最終的に介護が必要になったとしても、この拠点で最新の医療を受けることができる。最先端技術で介護が不要になることも

(筆者作成)

## (2) 福岡メモリアルスタジアム

観光都市福岡の拠点となるスタジアム。4万人規模のスタジアムは九州における国際試合のメッカである。また、全天候型施設なので福岡ドーム、マリンメッセ福岡とともに福岡での大型コンサート会場として活用される。また、歴史博物館を併設しており、メイン通りから見える姿は、福岡城を復元したかのような外観で、特に外国人観光客の観光スポットになっている(表9)。そんな外国人観光客をターゲットとして、免税店やカジノを併設する。クルーズから福岡メモリアルスタジアムの直行便は毎回満員である(表10)。

**表 9 福岡メモリアルスタジアム施設**

スタジアム	収容人数 4 万人の九州最大のスタジアム。国際試合では決勝トーナメントも開催される。
コンサートホール	5 万人規模のコンサート会場としても利用可能。最新の映像設備を完備しており、海外アーティストに人気
福岡ミュージアム	最先端の VR 技術を駆使した山笠体験が人気で、福岡のことを知ることができる歴史博物館。
カンファレンスルーム	海外の企業を招いて会議を行ったり、セミナーを開催したり、またビジネスマッチングの場としても利用される

(筆者作成)

**表 10 福岡メモリアルスタジアム複合施設**

免税店	九州最大の免税店が併設されており、いつも外国人観光客で賑わっている
カジノ	九州初のカジノ。この施設を目的に来る外国人観光客も多いとか

(筆者作成)

### (3) FUKUOKAスマートスタジアム

スタートアップ特区の象徴として、世界からも注目されるスタジアム。ここにくれば、市民は常に近未来体験ができる場となっていて、地元スーパーチェーンが展開する無人スーパーはいつも客が絶えない人気店である。また、スタジアムでは高密度 WiFi を設置専用アプリで、AR 中継を体験できる。また、スタジアム内の売店はキャッシュレスでアプリを通じて購入が可能となっている。その購買データはビックデータとして DMP として活用も可能である。スタジアム内にはスポーツインキュベーションセンターがあり、スポーツ関連ベンチャーはスタジアム内で採れるデータを活用した新たなサービスの開発を行っている (表 11)。スタジアムの周りには、気軽に IoT 最先端技術を楽しめるスマートホテルや IT テックプレースなども併設。子どもから大人まで、楽しめるようになっており、ひと目体験したいと国内外からの観光客が絶えない (表 12)。

**表 11 FUKUOKAスマートスタジアム施設**

スタジアム	国際試合対応。高密度 WiFi 完備。満員になった会場でもストレスなく通信が可能。また、ドローンのレース会場にもなっており、ドローン競技の聖地とも言われている
スマートショップ	スタジアムの売店はすべてスマート決済に対応。専用アプリがあればキャッシュレスで買物が可能に
スポーツ IoT	様々なカメラやセンサーが取り付けられていてスポーツ IoT に欠かせ

	ないデータ取得ができるようになっている
無人スーパー	地下2階には、地場の銀行、スーパー、ベンチャー企業がタッグを組んだ国内初の無人スーパーを併設。
インキュベーション施設	スポーツIoTを中心としたベンチャー企業のインキュベーション施設。

(筆者作成)

**表12 複合施設**

スマートホテル	地場ホテルが運営する無人ホテル。
VR体験シアター	様々なVR体験ができるシアター。インキュベーション施設に入っている企業の最先端技術を体験できる場にもなっている。
体験型ストア	家電や衣料品、家具など、商品を体験して購入することができる。商品に付いているQRコードを読み込むと決済され、早ければその日のうちに商品が自宅に配送される。
ITテックプレース	子どもたちが、プログラミングやロボットなど様々なテクノロジーを学ぶことができる場。

(筆者作成)

## 6. 多機能複合型スタジアム建設候補地

最後に、福岡市に新しい多機能複合型スタジアムを建設する候補地を示す。現在、福岡ドームや博多の森球技場は、駅まで徒歩15分以上となっており、自家用車やバスの交通渋滞などが課題になっている。また、福岡市はコンパクトシティゆえに、新たにスタジアムを建設する場所は少ない。その中で、様々な条件を考慮した上で、選定を行った。

**図8 多機能複合型スタジアム建設候補地**



(google マップを元に筆者作成)

### (1) 箱崎九大跡地

2018（平成 30）年に西区に完全移転する九州大学箱崎キャンパス跡地。現在福岡市で最も熱いエリア。地下鉄箱崎線 箱崎九大前駅、JR 九州鹿児島本線 箱崎駅、西鉄貝塚線 貝塚駅と鉄道駅が近く、都市高速のインターチェンジも近いなど交通の便が良い。箱崎が日本における多機能複合型スタジアムを中心とした新たな街づくりの最新モデル地区となる。



写真 1 0 箱崎九大跡地

(Google マップを元に筆者作成)

### (2) ウォーターフロント地区

博多港国際ターミナルを中心に拡張が進められているウォーターフロント地区。カジノや免税店など外国人観光客が好む施設を有した多機能複合型スタジアムは、インバウンドの目玉であり、福岡市のシンボルとなりえる。現在鉄道はないがロープウェイ構想があり、天神、博多へのアクセスがよくなることが想定される。

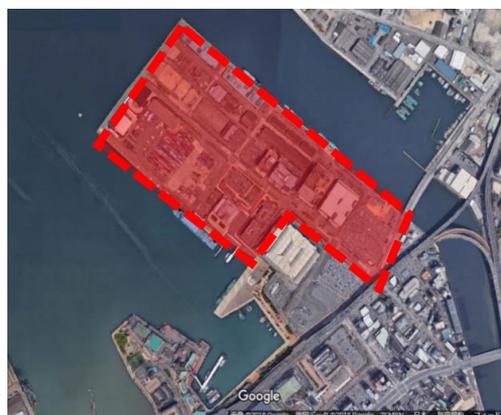


写真 1 1 ウォーターフロント地区

(Google マップを元に筆者作成)

### (3) 舞鶴公園

かつては福岡市のスポーツの聖地だった舞鶴公園。地下鉄空港線 赤坂駅が近く、なにより天神エリア徒歩圏内という好立地。鴻臚館跡や福岡城址などを中心にセントラルパーク構想が進められているが、あえてスポーツと文化の融合施設として多機能複合型スタジアムを提言したい。街中スタジアムはどの都市も憧れる福岡市自慢の観光拠点施設となりえる。



写真 1 2 舞鶴公園

(Google マップを元に筆者作成)

## まとめ

福岡は歴史的にスポーツといえば野球である。しかし、グローバル都市「福岡」を目指すにあたり、世界的な球技であるサッカーは外せないのではないかとこのところからこの研究はスタートした。研究を進めるうちに、世界的にもスタジアムはコストセンターからプロフィットセンターになり、スポーツは運動するということだけでなく、IoT や健康、人材育成など関連する産業の幅が広いこと、国もスポーツ関連産業を成長産業として、支援していこうとしていることがわかった。福岡市はこれまでサービス業を中心に発展してきたが、これからは健康モデル都市、スタートアップ都市として、確固たる地位を築くためにも、基幹施設として多機能複合型スタジアムの建設を検討していただきたい。

### <参考文献・参考資料>

- (1) スポーツ庁・経済産業省：『スポーツ未来開拓会議中間報告 ～スポーツ産業ビジョンの策定に向けて～』,2016/6
- (2) 株式会社日本政策投資銀行：『欧米スタジアム・アリーナにおける「スマート・ベニュー(R)」事例』,2014/7
- (3) 公益財団法人福岡アジア都市研究所：『第3極の都市 plus3』,2017/3
- (4) 西日本新聞 『大分へのラグビーW杯効果253億円 大銀経済経営研が試算 観戦客は18万9000人 [大分県]』,2018/2  
<https://www.nishinippon.co.jp/nnp/oita/article/394573/>
- (5) 「福岡市スポーツ振興計画」中間見直し検討委員会：『平成 26 年度福岡市市民スポーツ実態調査』,2015/3
- (6) フレンズ・アリーナ公式サイト  
<https://www.friendsarena.se/?lang=en>
- (7) リーバイス・スタジアム公式サイト  
<http://www.levisstadium.com/>
- (8) スポーツイノベーターズオンライン：『スーパーボウルで実証、世界最強の「IT スタジアム」』,2016/6
- (9) Jリーグ：『世界の街のサッカースタジアム #2 FC バーゼル 1893 (スイス)』,2014/5  
[https://www.youtube.com/watch?v=mg\\_Tby3QZXU](https://www.youtube.com/watch?v=mg_Tby3QZXU)
- (10) 宇都宮轍壺ウェブマガジン『いわき FC が「Jリーグに入らなくてもいい」と考える理由 安田秀一（株式会社ドーム代表取締役 CEO）インタビュー』,2017/10  
[https://www.targma.jp/tetsumaga/2017/10/26/post7088/#\\_](https://www.targma.jp/tetsumaga/2017/10/26/post7088/#_)
- (11) 内閣府 沖縄総合事務局：『スポーツ産業クラスター形成に向けて』,2016
- (12) 福岡市：『福岡市基本構想 第9次福岡市基本計画』,2012
- (13) 福岡市：健康先進都市戦略 『福岡 100 人生 100 年時代の健康社会モデルをつくる 100 のアクション』,2017/3



**氏名:** 谷脇良也

**所属先:** 福岡フットボール映画祭

**略歴:** 1975 年 3 月 3 日生まれ

福岡フットボール映画祭実行委員長。アビスパ福岡 サポーターとして 20 年以上活動。

サッカーを通じて、映画祭開催や障害者スポーツ支援や被災地復興支援なども行う。

仕事では、ベンチャー企業を 10 年以上渡り歩く。

#### **研究員活動の感想**

正直、興味本位で今回の市民研究員に応募しましたが、研究を進めていくうちに、スポーツ関連産業の大きさと世の中の動きを深く知ることができたことが大きな収穫でした。その中において、福岡市は思った以上にその点について遅れており、福岡市が抱える課題に対して大きな役割を担う可能性があるということを知ることができ、充実した研究期間となりました。また、研究に関して行動するたびに色々な縁があり、その度に悩んでいたことに対して気づきをいただき、まるで何かに導かれているようでした。

研究はこれで一旦終わりますが、個人的にこれをきっかけにスポーツ産業について、調査を進めていきたいと思えます。ご協力いただいた皆様ありがとうございました。